

情報文化 学生瓦版

2013年10月29日
第4号

発行	情報文化学科
社主	讃岐三白 松村
編集長	小柳 コナン
顧問	伊ツモカゲアシ 玉田 神部 電気ブラン 八木 イクメン 石川 ロングレック 坂道 スイスイ北詰 山田 ハーフ&ハーフ 大録 ふとまき 名和 きみの 阿部 マリオ 運針 山崎
学生	

千葉		31	22
広島		33	28
長崎		33	27
東京		31	24
香川		34	26

研究 情報教育研究会開催
玉田和恵教授が、江戸川大学にて第一回情報教育研究会を開催した。情報教育に関わる多くの教員・企業関係者が、若者の情報活用能力をどう育てるかにについて議論した。 3面



若者の情報活用能力養成に向けて

—— 本学にて情報教育研究会開催 ——

平成25年8月3日江戸川大学駒本キャンパスにて、第一回情報教育研究会が開催された。研究会のテーマは「次世代を担う若者に、情報モラル、情報社会での判断力、問題解決力、情報活用能力をどう育てるか」である。参加者の多くは、情報教育に関わる中学・高等学校の先生方やネットワーク関連の企業の方であった。

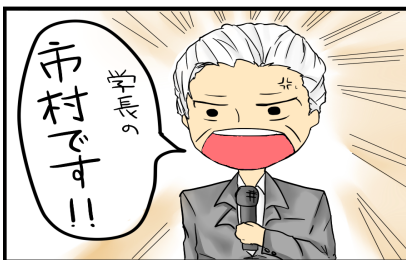
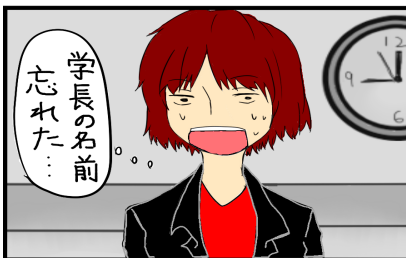
基調講演では、東京工業大学松田稔樹先生が「共通教科『情報』で汎用的な問題解決力をどう育てるか」「情報的な見方・考え方」を育てるための視点」という題目で、生きる力としての問題解決力を育成するための基本となる「情報的な見方・考え方」について講演して下さった。

その後、本学科玉田和恵教授が「情報社会での判断力を育成するための情報モラル指導講座」という題目で、道徳的規範・情報技術・合理的判断に関する「3種の知識」と「情報的な見方・考え方」を統合した情報モラルの指導法について講演した。



情報教育研究会に参加した方々

学長紹介の巻



作：四番 鈴木

イクエトイを活用した「情報の科学」指導例、実践女子学園社会情報教育イノベーション研究所光永文彦先生による「キャリア教育をテーマとした問題解決能力の育成」、埼玉県立朝霞高等学校春日井優先生による「高等学校情報科におけるeポートフォリオの活用」であった。発表後には、新たな教育や指導法について、熱心な質疑応答が繰り広げられた。

パネルディスカッションでは、「高校の情報教育の現状とこれからの取り組み」という題目で若狭学園中学校高等学校大貫和則先生、茨城県教育庁高校教育課指導主事津賀宗光先生、東京都立三鷹中等教育学校能城茂雄先生、茨城県立波崎高等学校校茂木孝允先生の4人の指定討論者を中心に討論が繰り広げられた。

講演後、参加された先生方による懇親会が行われ、より一層参加者の皆様との交流を深めることができた。研究発表やパネルディスカッションを通して、我々学生もパワーポイントの見せ方やプレゼンテーションの仕方を学ぶとともに、情報教育についてより深く興味関心を持つ事ができた。また、当日多くの先生方が参加し、白熱した研究発表・議論を繰り広げて下さったことに感動した。そして、身近にある情報だからこそしっかりと知識や見方・考え方を学ぶことが重要だということを感じた。

世の中では若者のネット利用が問題になっているが、次世代の情報化社会を担っていくために、このような貴重な話を伺うことができたことに感謝したい。

(横山ゼリー)

(古川ひぐらし)

蜷声月語 (ちようせい げつご)

今やパソコンは一家に一台から、一人に一台の時代になりつつある。そんな時代の到来にいち早く目をつけ、学生全員がパソコンを持つ、江戸川大学で、情報教育研究会が行われた▼クーラーで冷え冷えの部屋は、毎日木の上でのんびり暮らしている僕には肌寒かった。さらに、お母さん蟬の「ギャーギャー」という鳴き声と、お母さんのお師匠さんである松田蟬の口癖、「え」との絶妙なハーモニーに僕は、ついウトウトしてしまっただけなのかもしれない。でも、今回は緊張を我慢して、名前を忘れてしまった時は、思わず僕も大きな目が飛び出しそうになってしまったが、お母さんの十八番「情報モラル」の議題になると、大活躍。無事研究会は成功に終わった。相変わらずお母さんは大忙しであるが、僕も自慢の息子になれるように頑張ろう。

● ネット依存、ネット犯罪、ダメ。ゼッタイ

情報教育のプロ

玉田先生の

「お母さん幸せネット講座」

この講義でアナタも幸せなネットライフが送れるわよ!



ネット社会を生き抜く力 育てます

情報文化学科